

会務月報

第485号

発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

■第5回 青年部会連絡会議 議事概要

日時 令和5年7月31日(月) 14:10~16:10

場所 日事連会議室

出席者 主査 本澤 崇
副主査 東山 圭
委員 宮崎 勲、出村洋一、奥村健太、村田正道、
岸本章宏、山室昌敬
担当副会長 上野浩也
事務局 居谷、伊東、松谷、井上

議事に先立ち、上野担当副会長より、以下の趣旨の挨拶があった。
あと2ヶ月ほどで鳥取・島根大会に併せて青年話創会が開催されるが、中四国ブロック所属の村田委員をはじめブロック内におけるサポートは不可欠である。青年話創会の準備が予定よりも遅れているとも聞けるが、状況によっては、支援が必要であろう。

議 事

(1) 鳥取・島根大会 青年話創会について

①準備状況等確認

村田委員より、青年話創会2023鳥取・島根大会(案)をもとに当日の進行案の説明および準備の進捗状況等について報告し、委員より以下の意見等が出された。

- ・これまでの青年話創会では各青年部会等の活動状況の発表の時間を設けていたが、テーブルディスカッションの時間が足りなかったという意見を考慮し、発表の時間を短くし、テーブルディスカッションの時間を多めにとっている。
- ・テーブルコーディネーターは、島根会・鳥取会だけでは対応しきれないため、そのバックアップを中四国ブロック内の単

位の青年部会が対応することになった。

- ・8月にブロック協議会の青年部会が開催されるため、問題点の洗い出しや当日の運営等について協議し、日事連へ報告したい。
- ・青年話創会の準備会議は、鳥取会および島根会の合同会議となるが、対面開催は移動時間や交通費の負担が増大するため、Web会議を上手く活用したいが、実際は対面開催がメインとなっている。
- ・準備会議には15名程度が参加しており、遠方の委員の場合は宿泊費も発生していると聞いている。委員からは旅費の負担について質問が出ており、予算150万円の内訳が明確になっていないまま進んでいる。
→全国大会の打合せと併せて青年話創会の打合せを開催していると思われるが、会議の開催状況を確認する必要がある。
→鳥取会より、青年話創会の予算150万円を超過した場合の対応について問合せがあった。会議参加登録料の徴収も検討したいとのことだったが、参加費無料として案内をしているイベントであり、それは考えられない旨回答した。熊本大会と同様の考え方で、仮に予算が超過した場合、日事連は一切負担しないということではなく、事務局として事前に調整を行いながら判断していく旨説明した。なお、鳥取会としては、一口に運営スタッフと言っても色々関わり合い方が違うので、ボランティア的に参加してもらうか等、整理する必要があると聞いている。
- ・熊本大会では、九州・沖縄ブロック内の単位会に協力してもらったが、Webで打合せを行い、当日の協力もお願いした。青年話創会の予算は懇親会費や会場費の支出が中心であった。
- ・中四国ブロックでは、青年話創会でブロックに青年部会を設置したことを報告する予定である。討議の時間を減らすことになるが、報告してもよいか。
→ブロックに青年部会ができることは喜ばしい話である。鳥取会・島根会を中心に中四国ブロックがサポートして実施する青年話創会なので、紹介する良い機会ではないか。

中四国ブロック所属の副会長が挨拶を予定しているのであれば、そこでブロックの動きとともに報告してもらってもよいのではないかと。

- ・中四国ブロックとしては、若手会員が少ない状況で、その地域の色を出した青年話創会をブロックで開催したという状況を作り上げ、来年の福井会に引き継いで行くイメージで考えている。
- ・熊本大会での青年話創会では、8月に当日の式次第および青年話創会のテーマ、ディスカッション内容を事前に単体会事務局を通じて参加者へ伝えている。今年も同様の対応をした方がよい。
- ・開催地としていつ何を準備し、どの様な対応が必要なのか等マニュアル化し、引き継ぐべきである。

②青年部会連絡会議の役割

本澤主査より、青年話創会において本連絡会議に30分間時間をもらえることになったが、それまでに何か形にして成果を示すには時間がないため、来年の青年話創会へ繋げられるような形にならないかという発言がなされた。

委員より以下の意見が出された。

- ・今までは全国の青年部会の組織づくりを行うことを目的に懸命に意識づくりに努めてきたが、組織をつくることだけでは意味がなく、若手に対し、全国的に何か新しい同じことに取り組もうという投げかけをすることは、非常に大事だと思う。最初は小さなことでも雪だるま式にどんどん成長していくことを期待して、最初の1歩ぐらいまでは取り組みたい。
- ・現在問題になっていることをそれぞれ検証し、せっかくブロックや単体会にそれぞれ青年部会が設置されているので、1年に1回くらいは何らかの方法で交流する等はどうか。我々の組織作りの強化を引続き前面に押し出すのか、それとも、新しいことを何か決め、一斉に取り組もうという方向へ持っていくのか決めた方がよい。
- ・全ブロックに青年部が設立されていない状況なので、まずはそれを強化し、来年には全てのブロックに設置されているイメージで進めたい。

協議の結果、本日の意見等を整理し、青年話創会における青年部会連絡会議としての提言案のたたき台を作成することとした。

(2) 次年度に向けた青年部会連絡会議について

本澤主査より、次年度以降の青年部会連絡会議の運営体制について、以下のとおり意見が述べられた。

全てのブロック協議会内で青年組織設立に繋がる流れとなり、次年度以降の青年部会連絡会議の委員構成や運営体制の見直しも必要と思う。現在の活動実態に即し、次へのステップアップを目指す仕掛け等を検討し、本連絡会議としての考えを示す必要がある。

委員より以下の意見が出された。

- ・各ブロック内に組織を立ち上げても、その事務局的なものがない。
- ・ブロック内には持ち回りの幹事会はあるが、単年で幹事会が変わってしまう。青年部会連絡会議も短期間で委員が交代してしまうことは避けたい。数年間継続的に対応できる人を選出してもらう必要があるのではないかと。
- ・日事連副会長は各ブロックから選出されているので、各副会長の所属単体会より委員を選出してもらった方が活動がスムーズにいくのではないかと。
- ・日事連副会長はブロックによって1期で交代する場合もある。委員就任の継続性を求めるならば、それに拘る必要はない。
- ・本連絡会議の主査および副主査は、委員経験者より選出した方がよいのではないかと。
- ・青年組織の活動が充実している単体会からの選出がよい。
- ・委員の人は役員が決めることであるが、積極的に動いてくれる人を選出した方がよい。

協議の結果、本連絡会議としての考えを整理し、引き続き検討していくこととした。

(3) 各ブロック青年組織の活動資金について

各委員より、資料1によって所属ブロックにおける青年組織の活動資金について説明がなされた。

(北海道東北ブロック)

コロナのため活動を休止していたが、各単位会の青年部会に活動費が配分された。今年度の開催等は未定。

(九州・沖縄ブロック)

青年部会協議会参加費(旅費交通費、懇親会費)2名分については、各単位会の所属会員数により拠出した財源で負担している。年1回の開催では情報共有するにも十分でないので、複数回開催できるように提案を行ったところである。

(近畿ブロック)

青年活動の予算が設定されており、例会の会費の一部を補助している。

来る8月25日に「2023夏期例会 in 京都」の開催を予定しており、参加費10,000円のうち、2,500円は補助が出る。

委員より以下の意見が出された。

- ・関東甲信越ブロックは、来年7月の立上げに向け設立準備会を開催したところである。各ブロックの予算設定は参考としたい。

(4) 各ブロック青年組織の動きについて

各委員より、資料2-1から資料2-3によって各ブロック青年組織の動きについて説明がなされた。

(関東甲信越ブロックおよび近畿ブロックは、前項(3)で開催状況も含め説明済み)

(東海北陸ブロック)

石川会が独自で行っていた事業(リレートーク)を来る9月2日に東海北陸ブロックの青年委員会会議と併せて開催する予定としており、本連絡会議からは本澤主査がゲストとして、リレートークには出村委員が所属ブロック単位会として出席する予定である。今後、ブロックの青年部会の設置に向けた協議検討も行う。

委員より以下の意見が出された。

- ・各ブロックへ助成する際に、青年活動費を予算化するよう日事連から依頼することは可能か。
→日事連からブロックに助成する際に、青年活動の支援等に活用してほしい旨依頼しているが、一部のブロックには応

じてもらえていない。

- ・青年活動費の予算化については、こういった方法が適切なのかは一概には言えない。

青年活動費の予算化を日事連の方針で規定することは難しいと思うが、青年活動の活性化のために必要なこと、活動しやすい環境作りにはブロック協議会・単位会の協力が必要なが伝わるように、機会を捉えて依頼し続けていきたい。

次回の会議日程は、後日調整することとした。

(配付資料)

第4回議事概要

資料1 令和5年度九州・沖縄ブロック協議会青年組織の活動資金

資料2-1 東海北陸ブロック協議会青年委員会会議開催について

資料2-2 関東甲信越ブロック協議会青年委員会(仮称)第1回設立準備会議事録

資料2-3 近畿ブロック協議会青年部会 例会実施要領等

「青年話創会2023 鳥取・島根大会次第(案)」

次年度以降の青年部会連絡会議の運営体制について(案)

■主な行事予定

令和5年

8月	21日	鳥取・島根大会運営特別委員会 会員サービス検討WG
	31日	総務・財務委員会
9月	5日	BIMと情報環境WG
	11日	事務所登録電子化対応WG
	14日	正副会長会 常任理事会

令和5年7月末 会員・構成員異動報告等

1. 期間 令和5年7月1日～7月31日
 2. 会員在籍 正会員 47団体 構成員 14,375事務所
 賛助会員 8社

単位会	構成員		建築士事務所登録		賠償責任保険		
	増減	在籍数(A)	登録数(B)	加入率(A/B)	増減	加入数(C)	加入率(C/A)
北海道	△ 1	983	4,216	23.3%		285	29.0%
青森	+ 1	164	902	18.2%		44	26.8%
岩手	+ 1	273	921	29.6%		74	27.1%
宮城	△ 2	326	1,865	17.5%		86	26.4%
秋田		140	1,016	13.8%		49	35.0%
山形		207	1,084	19.1%		57	27.5%
福島		237	1,467	16.2%		70	29.5%
茨城		429	1,875	22.9%		147	34.3%
栃木		164	1,293	12.7%	+ 1	77	47.0%
群馬	+ 3	188	1,649	11.4%		88	46.8%
埼玉		438	4,538	9.7%	+ 1	132	30.1%
千葉	+ 1	339	3,276	10.3%	+ 1	111	32.7%
東京	△ 1	1,619	14,649	11.1%	+ 4	616	38.0%
神奈川	+ 6	754	5,834	12.9%	+ 1	230	30.5%
新潟	△ 2	303	2,182	13.9%		132	43.6%
長野	△ 1	381	2,027	18.8%		102	26.8%
山梨	+ 1	105	799	13.1%		13	12.4%
富山	+ 2	295	1,127	26.2%		65	22.0%
石川	+ 1	312	1,245	25.1%		64	20.5%
福井		197	938	21.0%	+ 1	55	27.9%
岐阜		117	1,512	7.7%		37	31.6%
静岡		380	3,002	12.7%		124	32.6%
愛知	+ 2	502	4,953	10.1%	+ 1	139	27.7%
三重		182	1,174	15.5%		64	35.2%
滋賀		185	1,096	16.9%		40	21.6%
京都		369	2,163	17.1%		107	29.0%
大阪		803	6,291	12.8%	+ 1	244	30.4%
兵庫		353	3,511	10.1%		97	27.5%
奈良	+ 1	105	880	11.9%		25	23.8%
和歌山		110	714	15.4%		23	20.9%
鳥取		116	477	24.3%		53	45.7%
島根		115	606	19.0%		53	46.1%
岡山		373	1,413	26.4%	+ 2	71	19.0%
広島	△ 1	342	2,244	15.2%	△ 1	147	43.0%
山口		104	990	10.5%		38	36.5%
徳島		112	810	13.8%	+ 1	20	17.9%
香川	+ 1	88	1,011	8.7%		19	21.6%
愛媛		192	1,167	16.5%	+ 1	52	27.1%
高知		137	639	21.4%	+ 1	35	25.5%
福岡		469	3,341	14.0%	+ 1	181	38.6%
佐賀		179	586	30.5%		45	25.1%
長崎		235	738	31.8%		45	19.1%
熊本		228	1,388	16.4%		96	42.1%
大分		148	829	17.9%		47	31.8%
宮崎		113	1,037	10.9%		44	38.9%
鹿児島	+ 1	281	1,146	24.5%		86	30.6%
沖縄		183	1,300	14.1%		68	37.2%
計	+ 13	14,375	97,921	14.7%	+ 16	4,497	31.3%

※建築士事務所登録数(B)は令和4年4月1日時点の数字である。